

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392200370		
法人名	ステラリンク株式会社		
事業所名	グループホームたんぼほ新かんべ 西ユニット		
所在地	愛知県一宮市今伊勢町新神戸字九反野18-1		
自己評価作成日	平成29年 1月27日	評価結果市町村受理日	平成29年 5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2392200370-004PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2392200370-004PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 3月 7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

起床から就寝まで、また就寝中でも、一人一人の生活習慣に合わせたケアを心がけており、それが画一的なものにならないようにしている。施設が職員ににとって職場である前に、利用者の方にとっては生活の場であり、職員は仕事でケアはするものの、それが機械的にこなすのではなく、利用者の方にとって生活していく中で喜びのや楽しみにつながるものであるという認識を持って接するように努めている。地域交流としては町内での祭りや運動会などに参加するなどして地域とのかかわりを持つことに努めているが、利用者の方の重度化に伴い、外出などの交流が以前より難しくなっていることもある。今後は施設から出かけることと同時に来ていただけるように努めていきたいし、地域の中で役割を担えるように相談などの支援が出来るように努めていく。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

近隣によく似た名前の施設があり、間違いが多いことから3周年を迎えるにあたり職員と話し合い、地域に親しんで頂けるようにと地名を入れた「たんぼほ新かんべ」とホーム名を変更した。  
2月に管理者が交代したばかりであるが、家族に事前に報告をする等して混乱はなく、施設長・管理者・介護支援専門員が協力して運営に当たっている。新管理者は開設当初からの介護職員であり、介護支援専門員と協力して介護現場の新体制確立に向けて進みだした。  
施設長はじめ職員の団結力は強く、理念である「全てはここを訪れるハッピーのために」を追求し、利用者の日々の暮らしを支えている。利用者の生活の様子はリビングの一角に個別アルバムとして置かれ、訪れた家族が自由に閲覧でき、ブログは更新されており家族から好評を得ている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常日頃より意識統一を図るために、全スタッフがたんぼぼの理念である10ヶ条を携帯し、一日1回職員間で読み合わせを行っている。	法人の定める行動規範10ヶ条を全職員が携行し、毎朝礼時に順次唱和して意識付けを行っている。マイスター検定制度を導入し、5段階の格付けを行って、職務遂行能力の向上と法人指針の定着を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にもできる限り参加し、地域住民の方々との交流をできるように努め、定期的に行う施設の行事に地域の方もお誘いしている。	地域の一員として存在意識が定着してきた。町内会に加入し、地域の運動会では席が設けられる等地域行事に積極的に参加している。子供会の行事の会場に駐車場を提供する等、双方向の交流がある。	周辺地域住民へホームの存在をアピールするためにも、町内の広報媒体(回覧板等)を利用されることを提案したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や問い合わせ時などで聞かれた際には、わかる範囲で返答し、できることをしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方など、日ごろお話を聞けない方からも、その立場からの意見を伺い取り入れていくように参考にさせて頂く。また包括支援センターの方からも助言を頂き細かいところでも修正していく。	奇数月にホームの現状報告を中心に運営推進会議を開催しており、意見・要望には真摯に向き合っている。家族から食事内容について改善要望が出された際、食材の調達方法、調理方法等の見直しを行った。	目標達成計画を公表し、進捗状況の報告を議題に採り入れていかれることを提案したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な所は訪問・電話などで助言を得ながら運営している。	管理者交代に絡み、市担当課とは頻繁に交流を交わした。運営推進会議への市担当者の出席は少ないが、地域包括支援センターにはホームの実状・運営実態は伝わっており、協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	骨折の為入院してみえた方が退院後立ち上がり不安定の為一時的に車いすの安全ベルトや四点柵を使用していたが、現在は使用していない。入口の扉は防犯上ロックしてあるがお客様が出られる際はすぐに開けるように心がけている。	防犯上玄関扉は施錠しているが、内扉は開放しており、自由に行き来できる。夜間の安全対策上、ベッド下に感知センサーを設置する場合には、家族の了解を取り、起床後はオフにしている。職員ミーティングでは、身体拘束の弊害について議論している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを作成し、入社時や法人内研修などにより啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名制度を利用されてみえる。担当者の方とは連絡を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時等、文面を用い起こりえるリスク等も含め説明を行っている。不安のないよう疑問点等についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご参加頂いた際の聞き取りにて意見・要望をお聞きし、随時検討し運営に反映させている。ご利用者とは、関わり合う時間を設け、ご意見を反映している。	運営推進会議において出された意見・要望については真摯に向き合っており、食事内容に関しては改善が実現した。部屋の片づけ、清掃の要望に対しても実現するよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各職員にケアへの意見を記入してもらい、毎月1回に会議資料に反映させている。代表は頻繁に事業所に足を運び職員からの意見を聞くように努めている。	毎月開催のユニット会議で意見要望の集約を行っている。日常的には、「スタッフノート」に、介護に係わる想い・不安・意見等を記し、記事を読んだ職員がコメントする仕組みがあり、不安等の解消に機能している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの能力を勘案し、努力が報われる仕組みがある。また、各職員が能力を発揮しやすいよう仕事上、各職員に独自に役割を提案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には、5日間の新人スタッフ研修を設け、受講してもらっている。法人内で様々な研修を行い、外部研修への参加も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期手に他施設との交換実習を行い、情報交換を行い、スキルアップを図っている。管理者をGH交流会に参加し、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の機会を設け、ご家族様の情報も聞きながら不安が軽減できるように努めている。心配事等相談頂けるように努め、心配事を気兼ねなく頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話やお会いした際施設でできることを説明するほか、不安なことや困りごとなど伺い安心して施設生活を過ごしていただくようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やが家族様が、今必要としていることは何かを見極めたくえで法人内で提供できるサービスの種類なども併せて提示していく。またそのためにも法人内で空きなどの状況確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちに寄り添い、家庭的な雰囲気の中で生活をいていくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所された時だけでなく、必要に応じて現在のご様子など電話でも伝え、ご家族様と施設と同じ認識のもとご本人を見させていただくという、意識で接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外でも電話や面会に見えた方は取り次ぐ。また事前に家族様にも了解を得ておく。	知人・友人、遠来者の訪問や、子供が旅行に誘い出した事例もあったが、多くは家族・親族の面会が馴染みの関係となる。調査時、生活歴からか、計算問題に取り組み、解答を記入している利用者に出会った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	併設デイも含めユニット間の行き来を妨げず、なるべくご本人が好まれる方との関係を支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子を伺ったり、ご家族様からの相談に随時応じて支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人とのかかわり方から、またご家族様からのお話から、ご本人の意向の把握に努めている。	日頃の観察を大切に、表情等から意向や思いを汲み取っている。あまり喋らない利用者にも絶えず話しかけ、家族の写真等を使って心を開かせ、少しでも話せるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談だけでなく、入所後もご家族様・ご友人などから生活歴を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様に担当スタッフを設け、定期的アセスメントやフロアノートで記入してそれを基に現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成に関しては、サービス担当者介護を開催し、ご利用者、ご家族のご希望を介護計画に反映できるように努めている。	毎月居室担当者がモニタリングを実施し、3ヶ月毎に会議で見直しをしている。事前に家族の聞き取りを行い、職員、介護計画作成担当者、管理者が参加してサービス担当者会議で検討し、計画を作成している。	思いの把握は出来ているが、介護計画に反映されていない。個別の具体的な介護計画であり、利用者・家族・職員が共に達成感が味わえる介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別に記録し、各職員で情報を共有し、介護計画に反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズを理解し、できる限り実現できるように努め、ニーズに対しては、ご自身の立場に立って捉え、共感の姿勢で支援するように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある地域資源の把握に努め、本人が心身の力を発揮しながら生活できるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医の受診を希望される方については、希望の応じた支援をしている。又、GHIに提携医があり、定期的な往診の他、適宜連絡し指示を仰げる体制を確保している。	かかりつけ医の選択は自由であるが、殆どの利用者が協力医の往診を受けている。他科受診は家族対応を基本とし、家族に日常の様子等の情報提供を行い、家族からは情報を収集してサービスに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は、看護師の配置はないが、できる限り看護師の配置ができるよう密な医療連携を目指している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し、入院に至る経緯や、最近のご様子、既往歴、内服薬等について出来るかがり伝達し、入院後も定期的な面会に行くなど情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の確認書を記入して頂く予定がある。その他、適宜家族様との話し合いにより、ケア方針を定め、看取りケア終了後も、振り返りの場を設け、介護力向上に努めている。	「延命についての確認書」で家族・利用者の意向を確認しており、重度化した場合、家族の思いがある限りホームで可能なぎりぎりまで、医師と連携を図りながら支援している。家族の意向を受け、最後は病院へ入院するケースが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回防災訓練を行い、その中で急変時の対応について学ぶ時間を設け、救急搬送を想定し、見やすいところに救急対応方法を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練により、心肺蘇生法やADLの使用法について学び機会を設け、自治会で行われる防災訓練にも出来るかがり参加できるようにし、職員のスキルアップを図り、地域との連携を図るように努めている。	消防署の立ち合いの下、年2回の地震、火災訓練想定で通報・消火・避難訓練を実施している。毎月19日に、定期的にホーム独自の避難訓練を実施し、それが習慣になるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、ご利用者様の人格を尊重し、言葉使いに気を付け、訪室時、トイレ誘導にノックするなどプライバシーに尊重に努めている。	ブログ等、個人情報流失しない様に配慮し、写真使用時には家族の了解を得ている。利用者の尊厳を大切にしており、ポータブルトイレの片付け等は、他の利用者の目に触れない時間に処理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事時間や入浴時間など自由に日常生活を組み立ていけるように配慮し、出来る限り自己決定、自己実現が叶うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、お一人お一人のペースや生活習慣・その日の想いを大切にしていける様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて身だしなみやおしゃれを楽しめるよう、ご家族様にもご協力を仰ぎ支援している。衣類等の購入には、出来るかぎりご本人様と一緒に出かけ購入するように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の関わりから聞き取りをし、嗜好や希望を踏まえた料理を提供している。食事づくり、片付けと一緒に出来るよう声かけに努めている。又、外食の機会も多く持つようにしている。	昼・夕食は配食材業者を活用し、朝の食材は職員と共に買い物に出掛けている。2つのユニットとデイサービスで分担して調理をしており、利用者の力量・要望に合わせて皮むき・切る・盛り付け等の役割がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの栄養やバランスを考慮し、ご利用者様の食事摂取量記録し把握に努めている。又、嚥下・咀嚼能力も考慮した食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご利用者様に合わせた支援方法で、航空ケアの援助を行っている。又、提携歯科に協力を仰ぎ口腔ケアの援助へのアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別排泄記録表にて記録・把握しケアに活かせるよう努めている。できる限り、トイレでの排泄ができるよう居室にナースコートを設置するなどし対応している。	トイレでの排泄を基本とし、失禁の多い利用者のリズムを知り、その人に合った誘導を行って失禁を減らした。トイレ誘導の言葉に拒否する利用者には「～ついでに行きましょう」等、一人ひとりに合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日個々に把握した上で、便秘薬等により服薬のコントロールを行っている。便秘薬に頼り過ぎないように、常日頃より、水分や乳製品摂取の促進・体操や腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきの入浴を想定しているが、できる限りお一人お一人のニーズに合わせて柔軟に対応している。又、時間帯についても出来る限り希望に添えるよう対応している。	毎日入浴を用意し、毎日の入浴もできるが殆どの利用者は隔日の入浴支援を受けている。入浴が寛げる様に「早くしてね」等の焦らせる言葉を使わないようにし、柚子湯等の季節感を味わう工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて、快適に安眠できるよう環境整備に努めている。ご利用者様のその日の体調を考慮し休息を促している。フロア内のソファの活用もする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングし、職員がいつでも閲覧できるようにしている。内服に変更があった際は、連絡ノート・処方箋ファイルなどに申し送りをし、口頭でも伝えるようにしている。又水溶性などむせこみにも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の能力に応じ、共同生活に役割を持った生活をして頂けるよう支援している。又、個々に楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様または家族様の、ご希望の出来る限り添えるよう、画一的な業務内容マニュアルは作成せず対応している。	日課の散歩では、ホーム犬の散歩と一緒に歩いていたり、近隣のコンビニや喫茶店に出掛けている。個別外出や、法人の車を使い弁当を持って花見等の行事外出を実施している。玄関前の庭で、日光浴をしながらの談話は利用者の楽しみの一つである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方にご自分で金銭の自己管理をして頂いている。又、金銭管理が難しい場合でも、お金を使うことが途絶えないよう預かり方法を工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との関係性にも配慮しつつある程度いつでも自由にかけて頂けるよう取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を施している。又行事に参加した際の写真を展示するなど居心地のよい空間づくりが創れるよう工夫している。	自然な採光があり、明るく清潔なリビングである。オープンキッチンは見守りがしやすく、食事作りの匂いや音が感じられ、窓から地域の家庭菜園も見えて季節を味わうことができる。行事の笑顔溢れる写真や季節感ある作品は温かさを醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の人間関係を考慮した上で、気の合う方との交流が出来るように席の配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室がご自宅の延長線上に存在出来るよう、できる限り使い慣れた物の設置を依頼している。ご本人にとって馴染みの物の重要性をご家族にお伝えして協力を依頼している。	遺影、冷蔵庫、筆筒等、馴染みの物が持ち込まれている居室、シンプルな居室等、個性豊かな清潔感のある居室となっている。飾らない居室に、職員の工夫や働きかけが見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面への配慮として、必要な箇所には手すりなどを設置する一方、できることが出来るよう安全な環境づくりをし、快適な生活が送れるように支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200370		
法人名	ステラリンク株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ新かんべ 東ユニット		
所在地	愛知県一宮市今伊勢町新神戸字九反野18-1		
自己評価作成日	平成29年 1月27日	評価結果市町村受理日	平成29年 5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200370-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200370-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 3月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

起床から就寝まで、また就寝中でも、一人一人の生活習慣に合わせたケアを心がけており、それが画一的なものにならないようにしている。施設が職員にとって職場である前に、利用者の方にとっては生活の場であり、職員は仕事でケアはするものの、それが機械的にこなすのではなく、利用者の方にとって生活していく中での喜びのや楽しみにつながるものであるという認識を持って接するように努めている。地域交流としては町内でのお祭りや運動会などに参加するなどして地域とのかかわりを持つことに努めているが、利用者の方の重度化に伴い、外出などの交流が以前より難しくなっていることもある。今後は施設から出かけることと同時に来ていただけるように努めていきたいし、地域の中で役割を担えるように相談などの支援が出来るように努めていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常日頃より意識統一を図るために、全スタッフがたんぼぼの理念である10ヶ条を携帯し、一日1回職員間で読み合わせを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にもできる限り参加し、地域住人の方々との交流をできるように努め、定期的に行う施設の行事に地域の方もお誘いしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や問い合わせ時などで聞かれた際には、わかる範囲で返答し、できることをしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方など、日ごろお話を聞けない方からも、その立場からの意見を伺い取り入れていくように参考にさせて頂く。また包括支援センターの方からも助言を頂き細かいところでも修正していく。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な所は訪問・電話などで助言を得ながら運営している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	骨折の為入院してみえた方が退院後立ち上がり不安定の為一時的に車いすの安全ベルトや四点柵を使用していたが、現在は使用していない。入口の扉は防犯上ロックしてあるがお客様が出られる際はすぐに開けるように心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを作成し、入社時や法人内研修などにより啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名制度を利用されてみえる。担当者の方とは連絡を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時等、文面を用い起こりえるリスク等も含め説明を行っている。不安のないよう疑問点等についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご参加頂いた際の聞き取りにて意見・要望をお聞きし、随時検討し運営に反映させている。ご利用者とは、関わり合う時間を設け、ご意見を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各職員にケアへの意見を記入してもらい、毎月1回に会議資料に反映させている。代表は頻繁に事業所に足を運び職員からの意見を聞くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの能力を勘案し、努力が報われる仕組みがある。また、各職員が能力を発揮しやすいよう仕事上、各職員に独自に役割を提案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には、5日間の新人スタッフ研修を設け、受講してもらっている。法人内で様々な研修を行い、外部研修への参加も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期手に他施設との交換実習を行い、情報交換を行い、スキルアップを図っている。管理者をGH交流会に参加し、ネットワークづくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の機会を設け、ご家族様の情報も聞きながら不安が軽減できるように努めている。心配事等相談頂けるように努め、心配事を気兼ねなく頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話やお会いした際施設でできることを説明するほか、不安なことや困りごとなど伺い安心して施設生活を過ごしていただくようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やが家族様が、今必要としていることは何かを見極めたうえで法人内で提供できるサービスの種類なども併せて提示していく。またそのためにも法人内で空きなどの状況確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちに寄り添い、家庭的な雰囲気の中で生活をいいていくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所された時だけでなく、必要に応じて現在のご様子など電話でも伝え、ご家族様と施設と同じ認識のもとご本人を見させていただくという、意識で接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外でも電話や面会に見えた方は取り次ぐ。また事前に家族様にも了解を得ておく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	併設デイも含めユニット間の行き来を妨げず、なるべくご本人が好まれる方との関係を支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子を伺ったり、ご家族様からの相談に随時応じて支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人とのかかわり方から、またご家族様からのお話から、ご本人の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談だけでなく、入所後もご家族様・ご友人などから生活歴を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様に担当スタッフを設け、定期的アセスメントやフロアノートで記入してそれを基に現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成に関しては、サービス担当者介護を開催し、ご利用者、ご家族のご希望を介護計画に反映できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別に記録し、各職員で情報を共有し、介護計画に反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズを理解し、できる限り実現できるように努め、ニーズに対しては、ご自身の立場に立って捉え、共感の姿勢で支援するように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある地域資源の把握に努め、本人が心身の力を発揮しながら生活できるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医の受診を希望される方については、希望の応じた支援をしている。又、GHIに提携医があり、定期的な往診の他、適宜連絡し指示を仰げる体制を確保している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は、看護師の配置はないが、できる限り看護師の配置ができるよう密な医療連携を目指している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し、入院に至る経緯や、最近のご様子、既往歴、内服薬等について出来るかがり伝達し、入院後も定期的な面会に行くなど情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の確認書を記入して頂く予定がある。その他、適宜家族様との話し合いにより、ケア方針を定め、看取りケア終了後も、振り返りの場を設け、介護力向上に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回防災訓練を行い、その中で急変時の対応について学ぶ時間を設け、救急搬送を想定し、見やすいところに救急対応方法を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練により、心肺蘇生法やADLの使用方法について学び機会を設け、自治会で行われる防災訓練にも出来るかがり参加できるようにし、職員のスキルアップを図り、地域との連携を図るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、ご利用者様の人格を尊重し、言葉使いに気を付け、訪室時、トイレ誘導にノックするなどプライバシーに尊重に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事時間や入浴時間など自由に日常生活を組み立ていけるように配慮し、出来る限り自己決定、自己実現が叶うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、お一人お一人のペースや生活習慣・その日の想いを大切にしていける様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて身だしなみやおしゃれを楽しめるよう、ご家族様にもご協力を仰ぎ支援している。衣類等の購入には、出来るかぎりご本人様と一緒に出かけ購入するように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の関わりから聞き取りをし、嗜好や希望を踏まえた料理を提供している。食事づくり、片付けと一緒に出来るよう声かけに努めている。又、外食の機会も多く持つようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの栄養やバランスを考慮し、ご利用者様の食事摂取量記録し把握に努めている。又、嚥下・咀嚼能力も考慮した食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご利用者様に合わせた支援方法で、航空ケアの援助を行っている。又、提携歯科に協力を仰ぎ口腔ケアの援助へのアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別排泄記録表にて記録・把握しケアに活かせるよう努めている。できる限り、トイレでの排泄ができるよう居室にナースコースを設置するなどし対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日個々に把握した上で、便秘薬等により服薬のコントロールを行っている。便秘薬に頼り過ぎないように、常日頃より、水分や乳製品摂取の促進・体操や腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきの入浴を想定しているが、できる限りお一人お一人のニーズに合わせて柔軟な対応している。又、時間帯についても出来る限り希望に添えるよう対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせ、快適に安眠できるよう環境整備に努めている。ご利用者様のその日の体調を考慮し休息を促している。フロア内のソファの活用もする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングし、職員がいつでも閲覧できるようにしている。内服に変更があった際は、連絡ノート・処方箋ファイルなどに申し送りをし、口頭でも伝えるようにしている。又水溶性などむせこみにも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の能力に応じ、共同生活に役割を持った生活をして頂けるよう支援している。又、個々に楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者様または家族様の、ご希望の出来る限り添えるよう、画一的な業務内容マニュアルは作成せず対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方にご自分で金銭の自己管理をして頂いている。又、金銭管理が難しい場合でも、お金を使うことが途絶えないよう預かり方法を工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との関係性にも配慮しつつある程度いつでも自由にかけて頂けるよう取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を施している。又行事に参加した際の写真を展示するなど居心地のよい空間づくりが創れるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の人間関係を考慮した上で、気の合う方との交流が出来るように席の配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室がご自宅の延長線上に存在出来るよう、できる限り使い慣れた物の設置を依頼している。ご本人にとって馴染みの物の重要性をご家族にお伝えして協力を依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面への配慮として、必要な箇所には手すりなどを設置する一方、できることが出来るよう安全な環境づくりをし、快適な生活が送れるように支援している。		